



オムニバスセッション 知の形成史

【ハイブリッド開催】

第9回 2023 12/6 [水] 16:40～

会場…E-C-203 / Zoom(オンライン併用)

どんな分野でもそうですが、「人文社会系」、もっと大きく「文系」としてくられる学問の中にも、多様な方法と目標・関心を持つさまざまな研究領域が広がっています。しかし、それぞれの研究領域は、初めから現在の形で個別に独立して存在していたものではありませんでした。そこには少なからず、人々の知的好奇心に導かれながらも、時代の移ろいや、それにとまなう社会の要求にも応答して分化してきた経緯があります。

本シリーズではいま一度、それぞれの領域の「出来(いでき)はじめ」を紐解きつつ、現在の学問が時代や社会に何を要求されているのか、そして何ができるのかを考えます。人社系の知の意味と意義を問いなおすことを通じて、協働研究の「コモンズ」醸成を目指します。

山口 裕幸 九州大学
人間環境学研究院教授 人間科学部門

視認困難な集団の心理学的 ダイナミズムを探究して

集団の中で、人々は互いに様々な形で影響を及ぼしあいながら、規範を形成したり、同調行動を選択したり、話し合っって集団の意思を決定したりする。集団で活動する時、人々はどうのように影響を及ぼし、及ぼされているのか。規範やチームワーク等、集団としてまとまりのある心理学的特性をいかなるプロセスを通して形成していくのか。ひとり一人の人間の心理過程はほとんど目に見えない形で進行するため、複数の人間が相互作用して織りなすグループ・ダイナミクスを探究する道筋は困難に満ちている。そうした困難とどのように向き合い、どのようなことを明らかにしてきたのか報告し、将来の研究課題と方向性について考察を加えたい。

[聞き手] 岩田 健治 九州大学理事・副学長

[司会] 木下 寛子 九州大学人間環境学研究院 准教授

